



# 学校図書館を活用した授業例



## 教科横断的な学習活動を取り入れた授業例

第2学年 美術科『絵や彫刻など』鑑賞「構図や技法に着目する」～浮世絵はすごい～  
国語科『価値を語る』「魅力を効果的に伝えよう」～鑑賞文を書く～

時数	教科	学習活動	学習指導要領との関連
第1時	美術科	浮世絵作品を鑑賞する観点を知り、全体で共通の作品について気付いたことや感じたことを話し合う。	美術科【共通事項】 (1) ア・イ
第2時	美術科	自分の好きな浮世絵作品を学校図書館や公共の図書館の図書資料から選び、前時に確認した鑑賞の観点をもとにワークシートをまとめる。	美術科【B鑑賞】 (1) ア(ア)イ(イ)
第3時	国語科	第3時にまとめたワークシートをもとに、鑑賞文の下書きを書き、ペアで推敲し合う。	国語科【思】Bウ・オ 【知識及び技能】(2)エ
第4時	国語科	鑑賞文をもとにグループで意見交換を行い、相互評価をする。	国語科【主体的に学ぶ態度】

### 【実践のポイント】

- 美術科、国語科担当者の「単元で身に付ける資質・能力」の共有を図る。  
※ 美術科「鑑賞の観点」「鑑賞の仕方」 国語科「根拠の適切さ」「表現の効果」 等
- 学校図書館にある浮世絵の資料だけでは不足するので、学校図書館司書と連携を図り、公共の図書館などから必要な図書資料を借りておく。
- 学習活動場所を学校図書館とし、「本を探す」だけでなく、その後の「グループでの発表」も行うことで「学習センター」としても活用する。(授業者、生徒の意識改革)



## 読書活動と国語科「書くこと」の授業をリンクさせた授業例

第1学年 国語科 「助言を自分の文章に生かそう」～作品の書評を書く～

時数	学習活動	学習指導要領との関連
第1時	学校図書館司書と教師がそれぞれ選んだ1冊の書評を比べる活動をとおして、何をどのように書くことが書評かについて理解する。	【知】(2)イ
第2時	自分が選んだ1冊について書評を書くための情報を収集する。	【思】B(1)ア
第3時	収集した情報をもとに下書きを書き、助言し合う。	【主体的に学ぶ態度】
第4時	助言をもとに書評を書き直し、振り返りを行う。	【思】B(1)オ

### 【実践のポイント】

- 学校図書館司書との連携を図る。(事前の本の準備、書評の依頼等)
- 国語科の授業以外で学校図書館を計画的に利用し、自分が小学校で学習した教材の中で最も心に残っている本を選んでおく。  
※ 小学校で学習したことのある教材を中心に絵本等を準備してもらうことで全員が内容を理解し、助言し合えるようにする。



「一人一台端末」が整備され、授業の中で辞書や本を活用する場面が今まで以上に減少傾向にあるのではないのでしょうか。確かに電子機器を活用することで新しい、多くの情報が瞬時に手に入るという利点があります。しかし、より信憑性の高い、精選された情報を得るためには「本」は今後も欠かさない媒体であると思います。必要に応じて、学校図書館の本や辞書、資料を活用することで、文章を「読み取る」だけでなく、文章を理解、活用、熟考する「読み解く読解力」を育成する一助となることと思います。次号では、「生徒が訪れたい図書館」について具体的な取組を行っている学校を紹介していきたいです。